誘導保育案

第八週

汽車

この頃になると、剛れ憎い子供が數人、先生を離れない位で、他はみんなお友達同志遊び合ふ樣になるのが常である。簡單な保育項目の繰り返しだけでは、何だか物足りない空虛さを感じやしないかと云ふ氣がして來る。そこで、こんな主題の下に計畫して見る。當園の各保育室に、幅一メートル、長さ一・五メートルのサンドボックスが備へてあるので、之を用ひる事にしたが、何も斯樣なものをわざ〳〵取り揃へるには及ばない。砂場を一寸、この目的の爲に使用しても可、又相當の大きさの箱があつたら、それに砂を入れて利用して結構。

この箱に砂を運ぶだけの事にでも、子供達はどんなに悅ぶか知れないのに、こゝへ野原を作つて、山を作つて、トンネルを通してと聞いたら、大人なら手を取り合つて飛び上る所だらう。

あまり參加者が多くて調整の必要が起るだらうと思ふ。そこが多年經驗を積まれた先生の腕と云ふもので、砂で、野原、山を作るもの、粘土で、レール、汽車を作る者と云ふ工合に、二つ位の大きなグループに分けてもこいゝと思ふ。先生がこの兩方を馳け廻つて、ちよつ、ちよつと指導を與へ、更に子供等の出來ばえ、語り合等によつて充實指導を與へる機會があらうと思ふ。第一日は先づこの邊までとして置く。

ついで、出來た砂箱に、片方、粘土で作つた汽車、レール、電柱、人等を、子供等と協議鹽梅して配置する。この配置は餘程氣を付けなければならないと思ふ。あまりこらぬ樣に、丸で大人の盆景にならぬ樣に。相手が五ッか六ッの極く幼い人であると云ふ事を始終念頭に置き子供の動きを主にしなければならぬ。

雜草を採つたり、小石を集めたり、人を立たせたり、い

ろ〳〵の、誰にでも出來る樣な仕事が殘つて居るので、活動しない人等に、退屈がらせずにこの仕事に參加させる事が出來る。

枯れた草を植えかへたり、趣向をちよく〳〵變へて見たり、珍しがつて眺めたり、いじつたりで、この仕事の繼續時間は一週間位は充分つゞき得るであらう。

これの期待效果は、共同的計畫作業への導き入れ、と、手技。

唱歌遊戲

第五週

唱歌　三回

ママゴト（エホンシャウカ）

女の子に歌はせる。これは殊に元氣一杯な男の子で、お友達同士で砂場等で面白く遊んでゐる樣なのを、無理に呼んで來て教へる必要はない。

遊戲　三回

ママゴト（戸倉ハル氏振付）

女兒だけでして見るのもよいだらう。

汽車が走る（三浦ヒロ氏振付コドモノ遊ビ參照）

子供たちの自由な表現にまかせ、適當な指導に依つて、いくらでも面白く發展させる事が出來る。

然し年少組の最初は、圓形の儘で所々に二人宛手を連いでトンネルを作らせ、シュッ〳〵〳〵と云ひながら手で車輪の廻る樣子をして馳け出す程度。

だん〳〵慣れて來ると、車掌を定めて、發車の合圖と、停車場に着いた時に（曲の終つた時）驛名を呼ぶ樣にすると興味が多い。男兒が好む遊戲である。

第六週

唱歌　三回